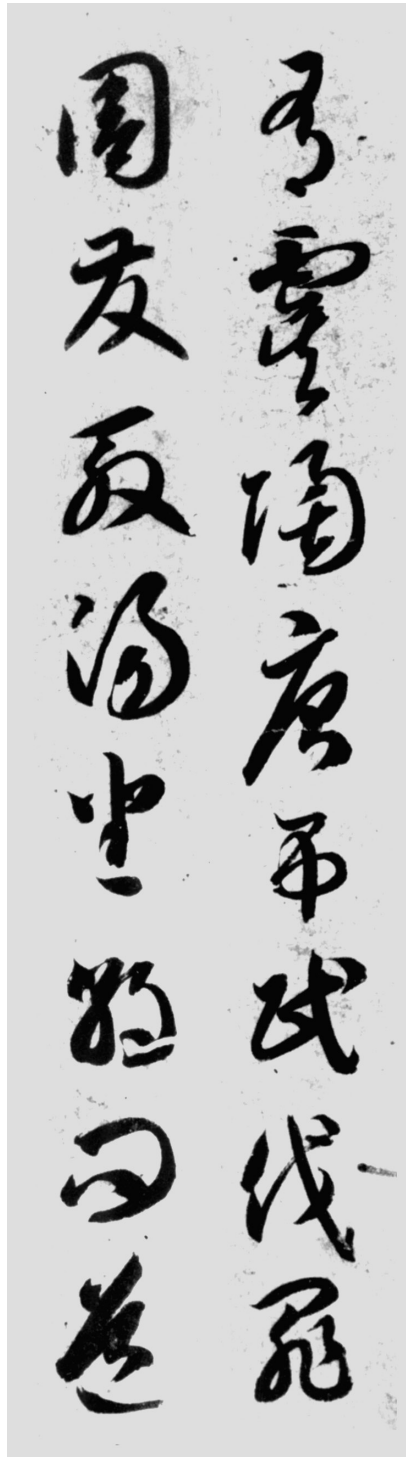
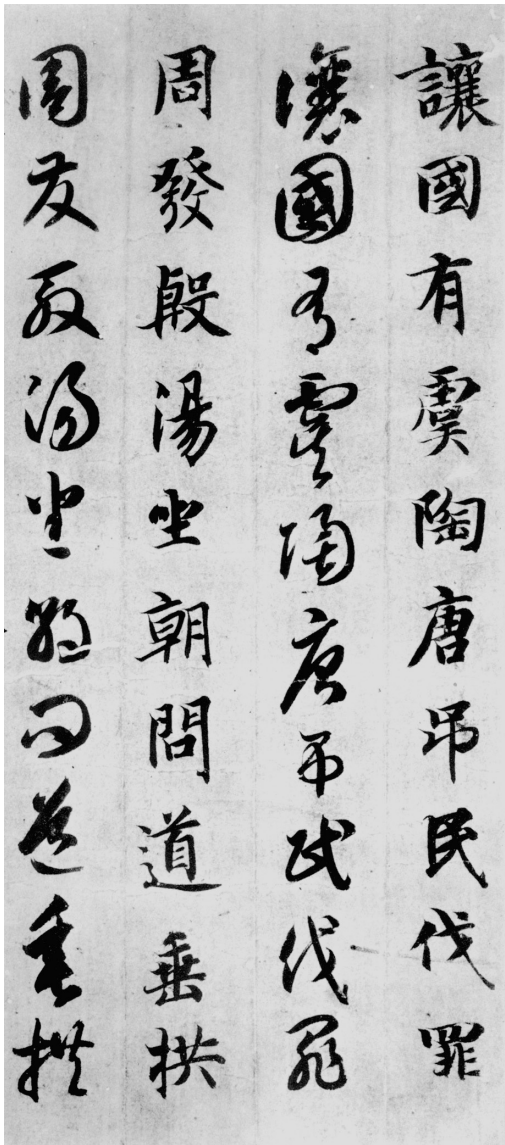


智永 真草千字文



(参考)

有虞陶唐ゆうぐとうとう 弔民伐罪ちようみんばつざい 周發殷湯しゅうはついんとう 坐朝問道ざちようもんどう (日本習字普及協会)



今月から条幅臨書部は半紙臨書部と連動することになりました。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料無料。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

「印」について

高橋 香樹

前稿は特に必要な印として「姓名印」・「雅号印」・「引首印」を取り上げましたが、今回はあると便利な印「堂号印」を紹介したいと思えます。

堂号印

堂号は自分の家屋や書齋にちなんで名づけるもので、堂号印は別に「齋堂館閣印」・「齋館印」とも呼ばれています。堂号印は朱白どちらでもよく、慣用語としては、齋・堂・館・閣・庵・居・亭…があり、書画では引首印・姓名印・雅号印のかわりにも使われます。また堂号に「主・主人」を加えた「〇〇堂主人」「〇〇居主人」などもよく行なわれています。堂号は必ずしもその建物が実在しなくてもよく、その数にも制限ありません。

私の場合は、最初につけたのが「雅珍堂」。これは二十数年前、友人と二人で上海に行った折、案内してくれた人の名前（王雅珍）を聞いた時にピンときて、この名前を戴きました。次に「湖畔艸堂」。私が現在住んでいる場所は、多摩湖のすぐ脇で、町名を湖畔といいます。「枕石閣」。印を刻る者として、寝ている間も印のことに思いをいたすよう

にと。「粕壁庵」は出生地名を堂号としました。それぞれ印にして便利に使用しています。また、半切一行書に落款を入れる場合、雅号だけでは物足らない場合、堂号を入れて書くようにしています。

例 壬辰暮春於

湖畔艸堂書香樹

(3ページB作参照)

では実際に印を押してみよう。

〇印泥のつけ方

印が正確に押されているかどうかは印泥のつけ方にあります。印を依頼すると必ず印が押された印箋がついてきます。これは、「印はこのように刻しました」と同時に「このように押して下さい」という意味があります。篆刻家は、押印には大変神経を遣います。それは全て押された印影で判断されるからです。印泥は長い間使わずに放置しておく、カビがえたり、油が分離したりします。そこで常備されているヘラ

でよく練ることです。練った印泥は山状にし、印泥をつけやすい状態にします。肉池を左手に持ち（肉池を机上に置いたまま印泥をつけるのは以ての外）、石と肉池を少しづつ回しながら軽く叩くようにし、均等につけます。印泥のつきすぎ、少なすぎは正確な印影を得られないので注意が必要です。

〇押印のし方

押印するには台が必要で、これが「印褥」です。「印褥」は書の専門店で購入できますが、私のはつかいません。私



の場合は、まず厚いガラス板（厚さ五ミリ以上で、半紙の4程度が大きさがあれば可）を用意します。このガラス板の上に版画用のゴム板をのせて押印します。小さいもの（1cmぐらいまで）はガラスに直に作品を置き押印できますが、1.2cm

3.0cmまではこのゴム板をのせ使用。それ以上はゴム板で押印した後、印材もろとも紙を持ち上げてから版画用のパレンでこすり落とします。印材が大きくなれば手押しだけでは印の中心部に力が及ばず正確な印影が得られません。その為にパレンを使います。印影の不備を補うのに「印矩」を使う方がいますが、私は使いません。私は二度押しすることはありませんし、奨めません。

さあいよいよ押印します。

〇紙の表面はみた目よりも紙の繊維がケバだっていたり、凹凸があります。爪を使ったり、印材の頭の部分で紙面を整えておくことにより正確な印影が得られます。

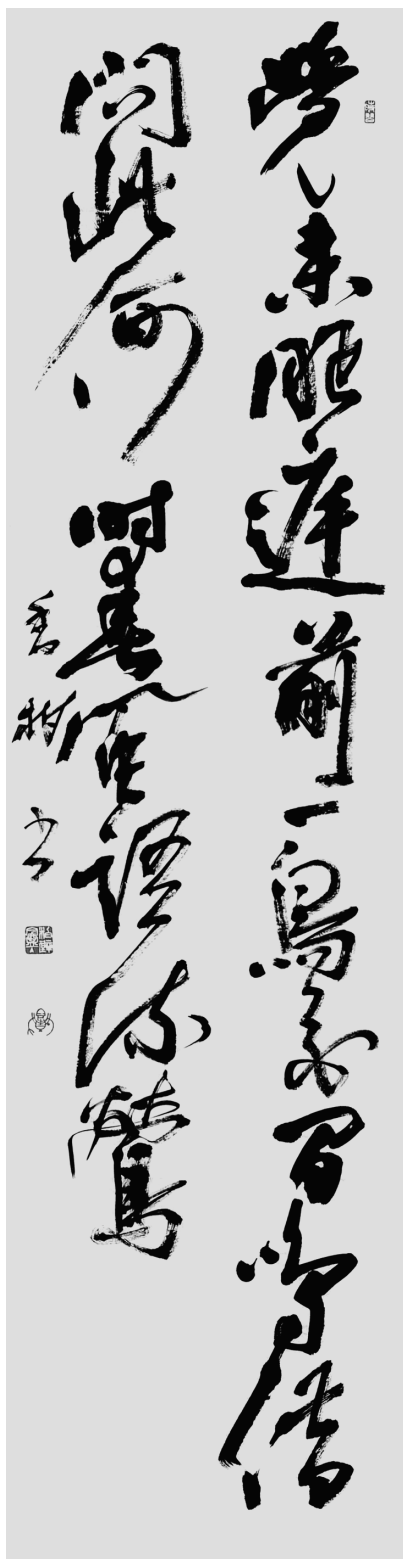
〇印泥をつけた印材をあらかじめ決めた場所に置き軽く四方に力を加えます。

〇紙と印材はピッタリと付きますから、両者を離す時は無理をしないで、左手で紙を押さえゆっくり印材を持ち上げてゆきます。紙がパリリと離れてゆく状態がよいのです。

正確な印を押せるようになるには、数多く押すことが必要です。作品に、どのような印をどのように押してあるかというのは、その人の審美眼・力量をも問われると思います。是非、印にも関心を持っていただけたらと思います。

A 高橋 香樹 先生 書

覺來昞庭前 一鳥花間鳴 借問此何時 春風語流鶯 (李白)
 覺め来って庭前を昞れば、一鳥花間に鳴く。借問す此れ何れの時ぞ、春風流鶯語る。



B

高橋 香樹 先生 書

小さい文字をできるだけ多くと思い書き始めたが思うようにならず。「鳥」が三字でてくるので、この「鳥」の変化を考えこのような形にしました。「庭」は王羲之・太宗等にこの形あり。連綿線は三字連綿一ヶ所、二字連綿三ヶ所。一行目は自然な流れを感じるが、二行目は少し物足りない。



通常三行書は二十八字は欲しいのですが、あえて二十字を三行書としてみました。「花」は「華」で縦長にし、「何」の末筆を伸ばし、三行目は三字としました。墨継ぎは二行目「一」、三行目「問」、三行目「語」とし、三行目下が大きく空くので落款は「壬辰暮春於湖畔卍堂書香樹」としました。訳：目が覚めて庭先を眺めていると、一羽の鳥が鳴いている。夢うつつなので、ちょっとたずねて、いったい今は何の季節なのかと。すると庭の中から晩春の鶯の声が聞えてきた。

予告 (五月二十二日締切)

山色湖光設朝供

竹影松陰生午涼 (房皞)

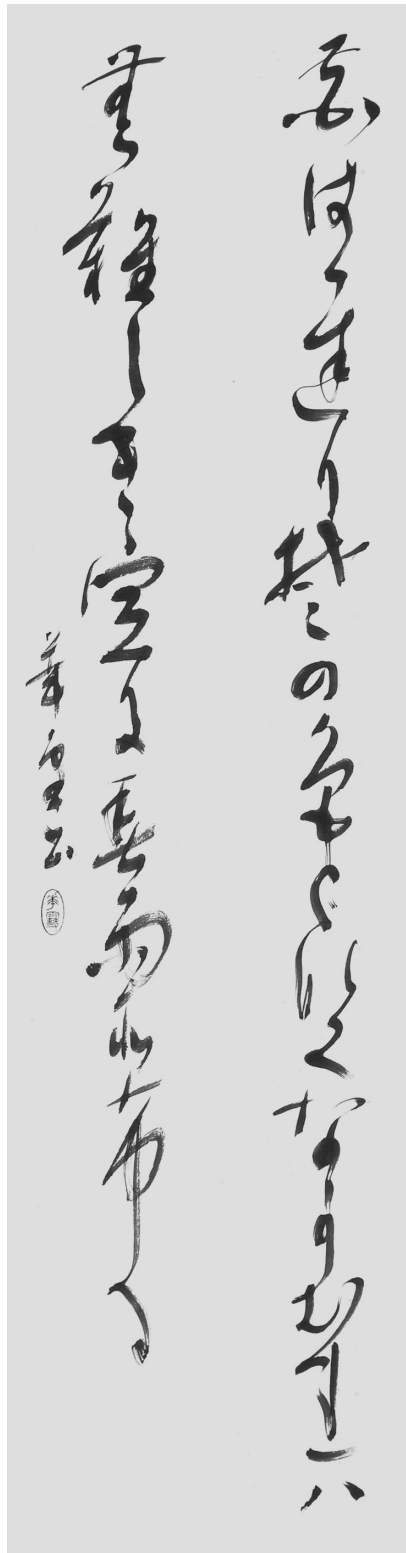
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

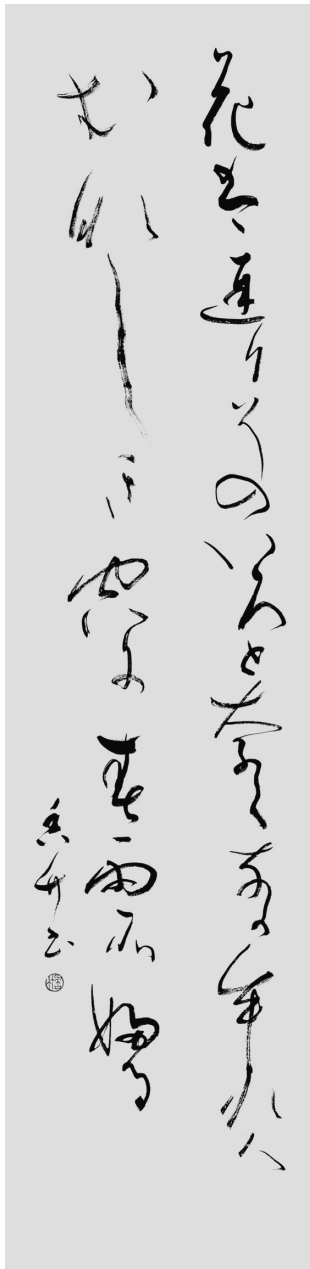
花は散りその色となくながむればむなしき空に春雨ぞふる (新古今和歌集 式子内親王)
花は遅り楚の色と那久な可む連八無難しき空尔春雨所布る



B

青柳香竹先生書

花盤遅り曾のいろと奈く奈可牟れ八む那しき空尔春雨所帰る



学 び 方

通訳：桜の花は散り、何を見るところに当ててもなく、呆然と見ていると、何もないう大空に、春雨だけが降っている。
「花盤遅り」は放ち書きを「いろと奈く」で幅を出し「牟れ八」は墨少なく細く。
二行目の頭はゆったり動き大きく、この歌意を強調しました。「春雨」から墨を入れ締めました。
二行目は、潤濁による変化と、左右への行の揺れを加えての変化を出しました。
紙面の構成として、文字との余白、潤濁による白黒の表現を考え、創作してみてください。

式子内親王：生年未詳
後白河天皇の第三皇女。
新古今集時代を代表する女
流歌人で優艶な作風で知ら
れる。
さびしさ、むなしさ、と
して捉えつつ、しかもなお
絶えんとして絶えずにいる
緊張の高まり、そのところ
に無限の感動を寄せる作者
の歌の特色があった。「中
古三十六歌仙」の一人。
「式子内親王集」がある。

予告 (五月二十二日締切)

をしめどもとまらぬ春もあるものをいはぬにきたる夏衣かな (新古今和歌集)

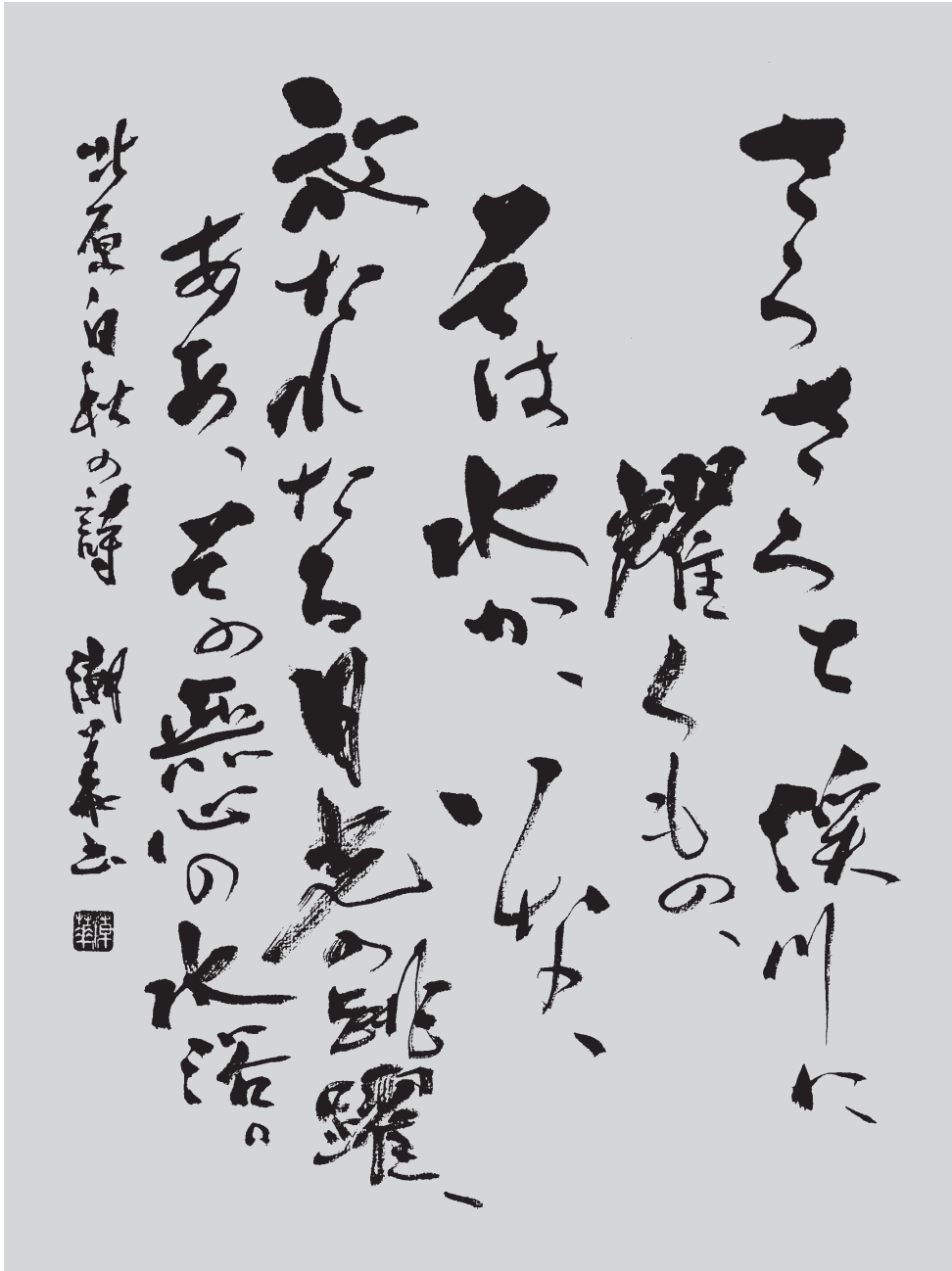
- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

水貝潮華先生書

耀くもの 北原白秋

さうさうと
溪川に耀くもの、
そは水か、いな、
放たれたる日光の跳躍、
ああ、その無心の水浴。

「句読点」のついた作品への挑戦
句読点をつけることによる作品の効果を考えて、書いてみましょう。同じ点「、」でも、いろいろ変化をつけて書くことがポイントです。私の書いた作品はあくまで例です。皆さんのそれぞれの個性を生かした作品への取り組みを期待しております。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

晚鶯遠林に啼く(柳宗元)

訳：晩春の鶯が遠くの林の中でないている。

〔基本的構成について〕

- 「鶯」の第一画、「啼」の傍の第三画は必ず下の横画とは離すこと。
- 「鶯」の「連火」(灬)は、上の画に近づけて書く。連火は全てです。
- 「啼」のように偏が小さい文字は偏は上部にすると形が整う。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

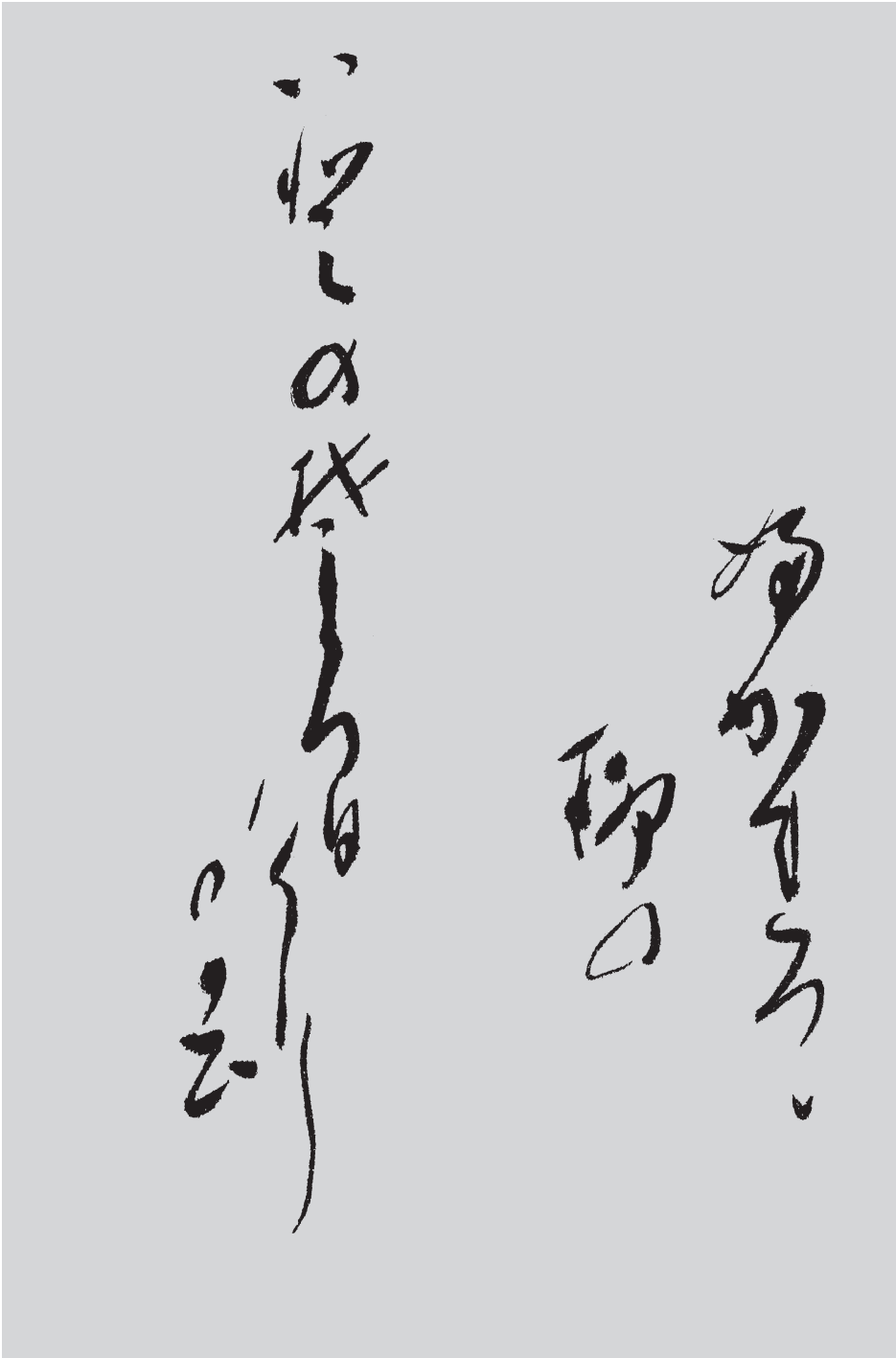
平岡華雪先生書

ふかれつゝ柳の絲のそろひけり(きみ子)
婦か連つゝ柳のい登の楚ろ日介り

〈既出の用筆を参考に〉

右群、二三行共行末は軽く、特に一行目は踊り字をサラッと表出させたい。

墨継ぎは「楚」字でアクセント、稍強めて「介り」を寄せ、「り」の末画は長く効果的に。落款「介り」に寄せ調和的に。



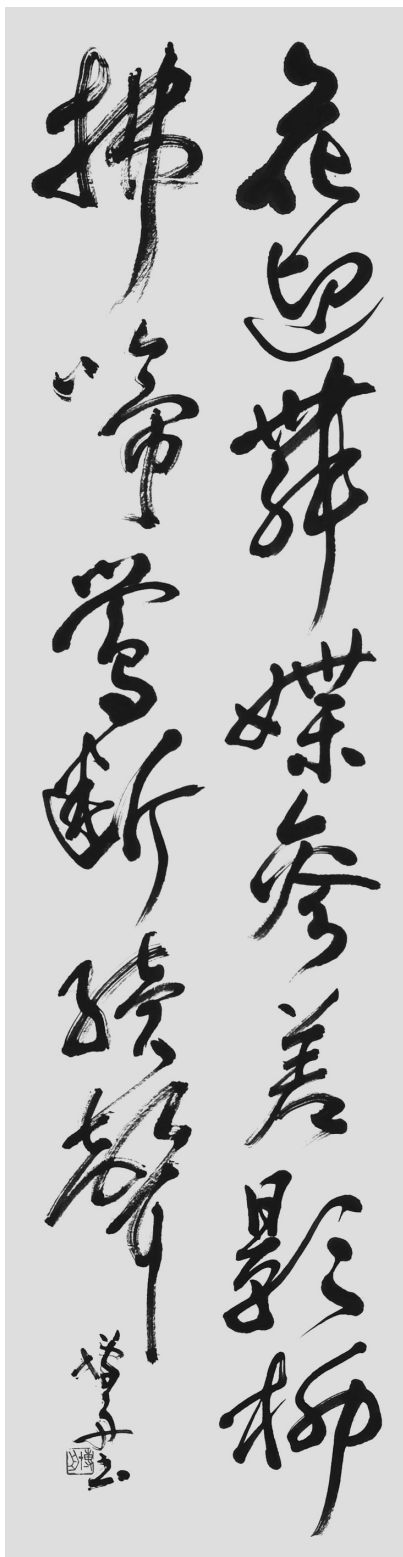
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

条幅部 随意参考

北沢博舟先生書

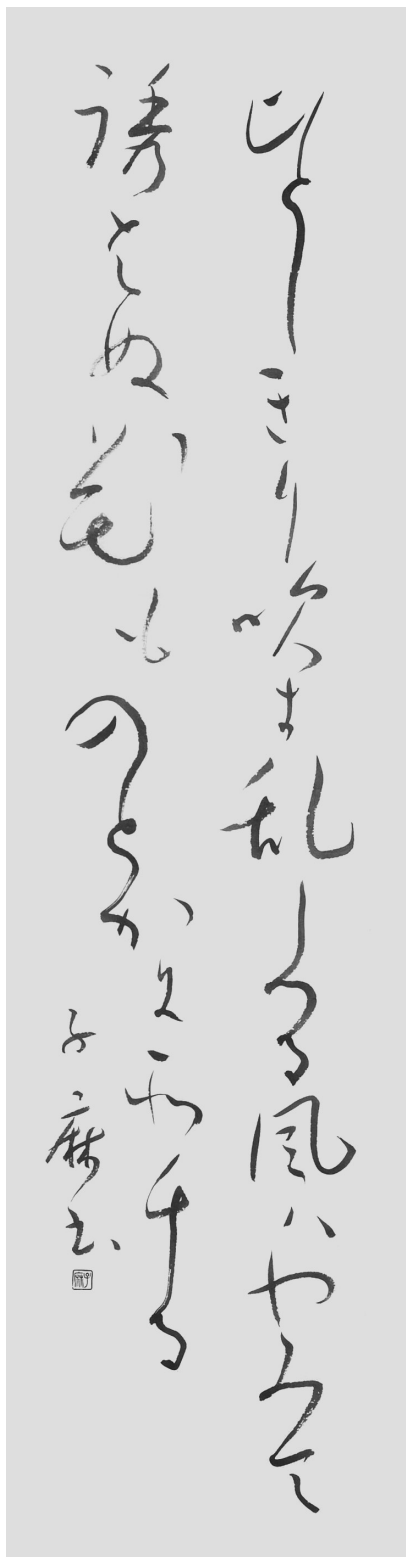
花迎舞蝶参差影 柳拂啼鶯斷續聲（呉嗣范）
 花は舞蝶を迎う参差の影、柳は啼鶯を払う断続の声。



訳：美しく咲く花はひらひらと舞う蝶を近づけ、柳の糸はしきりと鳴く鶯声を払うが如くに聞える。

林子麻先生書

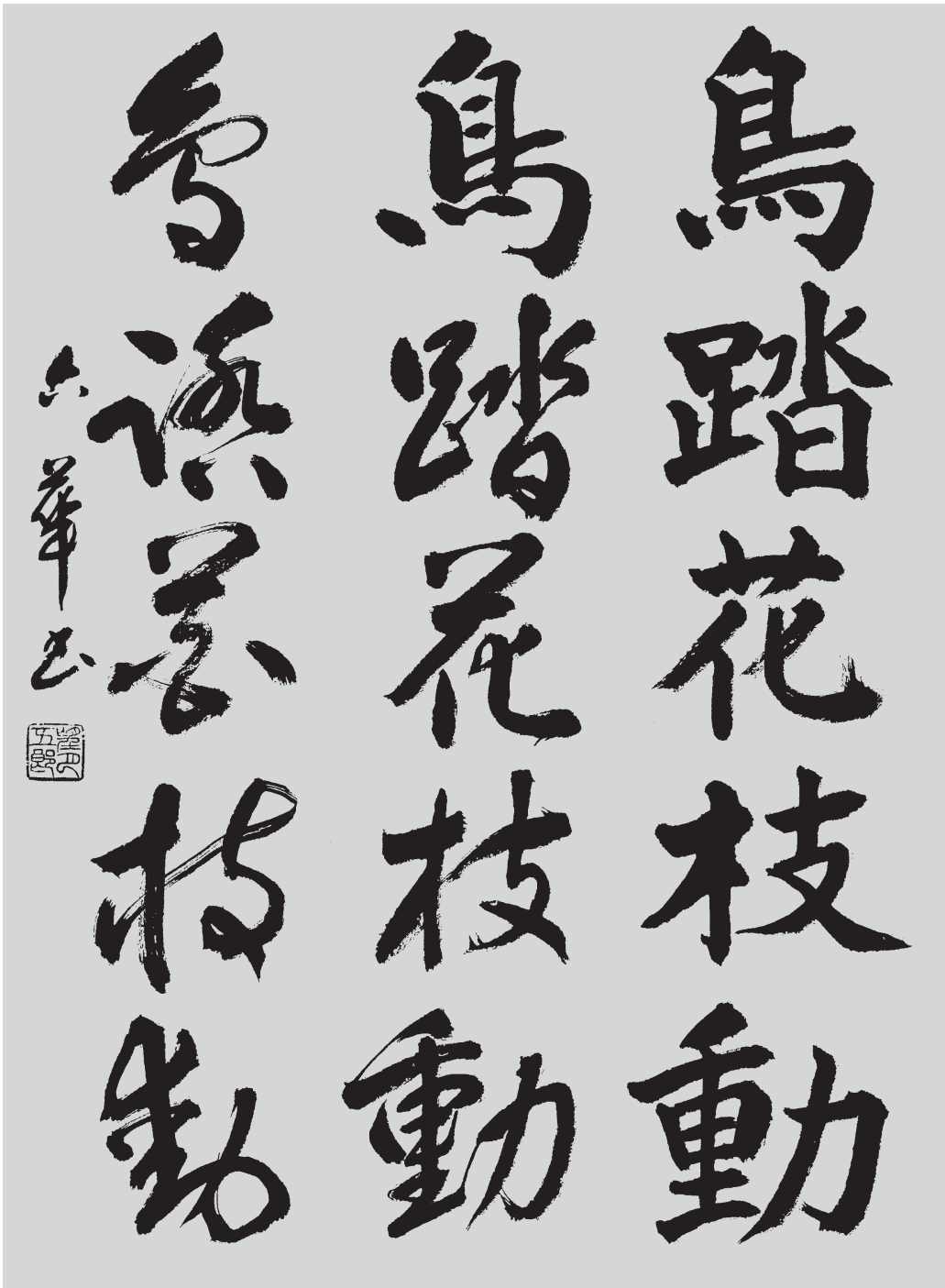
ひとしきり吹き乱しつる風はやみて誘はぬ花ものどかにぞちる（風雅和歌集 藤原為兼）
 ひとしきり吹き乱しつる風はやみて誘はぬ花ものどかにぞちる



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

望月六華先生書

鳥踏花枝動（張琦）
とりふん かしよう
鳥踏で花枝動く。



訳：窗外には人もいないのだが、花枝の動いたのは鳥が踏んだのであった。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

二 字 参 考

路川千曄先生書

佳趣かしくも（李存）



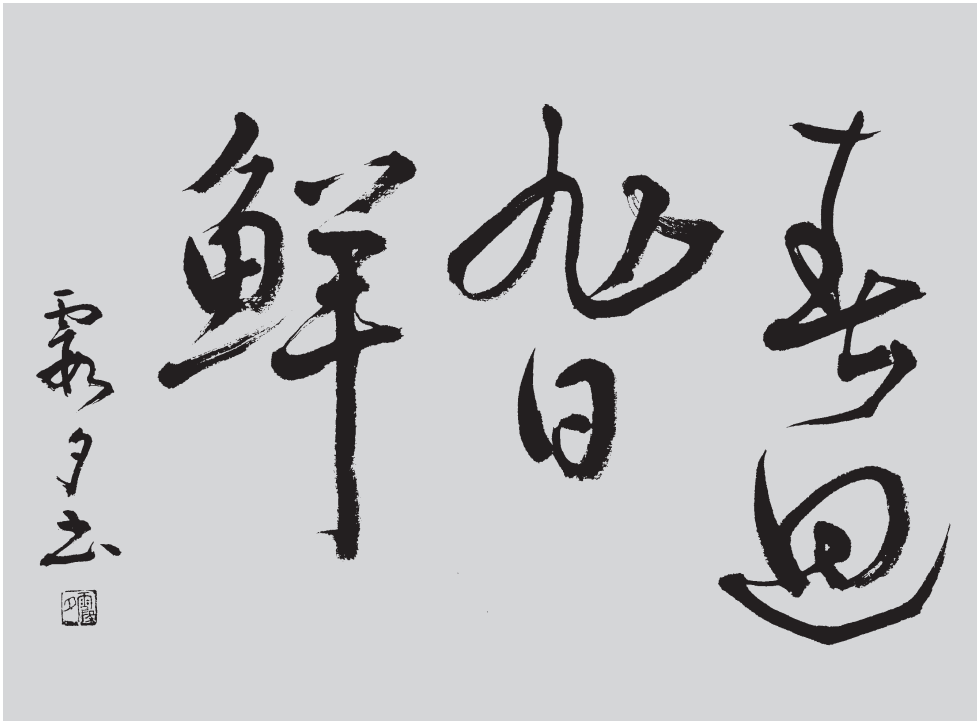
訳：よきおもむき。佳致。

◆随意部参考として出品してください。

随 意 部 参 考

外川霞夕先生書

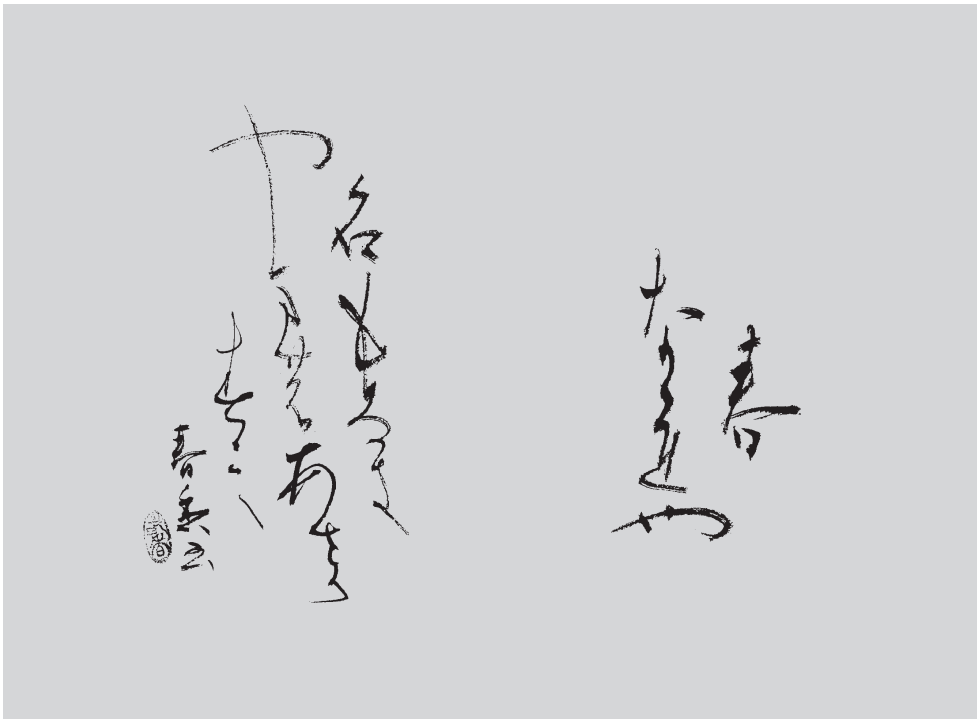
春廻^{はるまわ}旭日^{あさひ}鮮^{あざ}(袁桷)
春廻^{はるまわ}り^り旭日^{あさひ}鮮^{あざ}やかに。



訳：天地は春となって朝日が美しくさし上った。

石原春香先生書

春^{はる}なれ^なや名^なもなき山^{やま}の朝霞^{あさかすみ}(芭蕉)
春^{はる}な連^れや名^なも奈^な文^なや万^ま農^のあさ可^か春^か三^み



添削又は手本希望者は本会規定により直接先生にお申し込みください。外川霞夕（〒410-0045 沼津市泉町15-5）石原春香（〒370-0087 高崎市楽間町224-21）

硬筆部課題参考

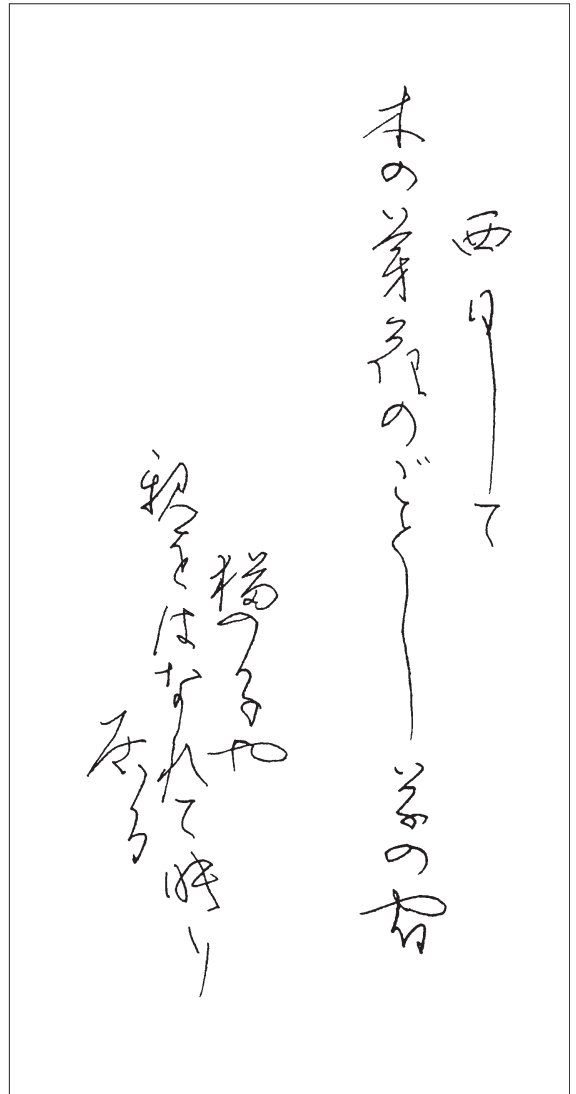
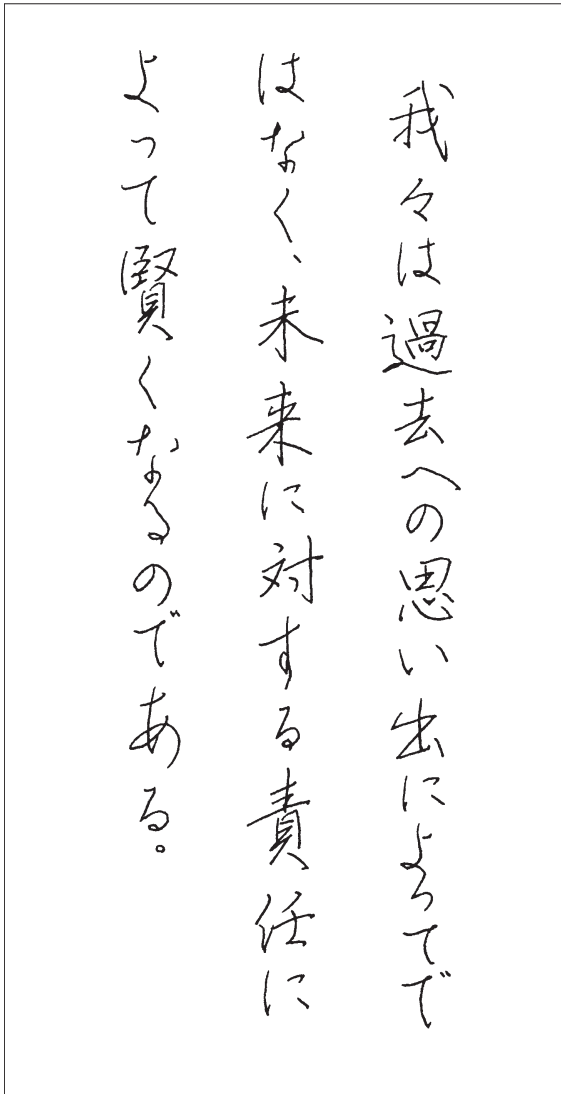
(四月二十二日締切)

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

西日^{にしび}して木の芽花^{きのめはな}のごとし草^{くさ}の宿^{やど}
猫^{ねこ}の子や親^{おや}をはなれて眠^{ねむ}り居る

鬼城

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題1 六〇〇円
課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 三三〇〇〇八七

高崎市楽間町二二四ノ二一

課題2 松浦江波先生 五二〇二四三

相模原市緑区橋本六ノ四一一九

課題2 (初段階以下)

我々は過去への思い出によってではなく、未来に対する責任によって賢くなるのである。

バーナード・ショー